

・伊豆沼 (178) ・ 栗原市

38・43・4N 141・5・12E



内沼のオオハクチョウ



伊豆沼の岸辺で採餌するオオハク

1. ハクチョウ類飛来状況 (20011 年～ 2015 年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	858	1,899	2,137	1,622	1,572	1,618
コハクチョウ	36	11		24	138	42
類合計	894	1,910	2,137	1,646	1,710	1,659

2. 選定地の状況

登米市、栗原市にまたがる、面積 491ha、最大水深 1.6m のラムサール条約湿地である。堤防周辺ではヨシが、沼内ではハスが優占する。オオハクチョウの越冬地として、宮城県最大であり、多いときには 5,000 羽ほどが越冬する。オオハクチョウは沼内でねぐらを取り、周辺の水田で落ち粃を、沼内でレンコンやマコモの地下茎を採食する。マガンのように一斉に沼から水田へ移動することはなく、三々五々小さい群れで移動する。鳥インフルエンザ発生以前は大規模な給餌を行っていたが、現在では給餌を縮小している。衛星追跡によって伊豆沼を出発したオオハクチョウは、北海道道東、サハリンを経由して、コリマ川やインディギルガ川中流域で繁殖することが明らかとなっている。

(選定協力員：嶋田哲郎，
写真：伊藤利喜雄)

・ 蕪栗沼 (163) ・ ・ 大崎市

38・38・12N 141・6・18E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	874	492	579	451	559	591
コハクチョウ	161	120	7	106	173	113
類合計	1,035	612	586	557	732	704

2. 選定地の状況

周囲の水田も含めてラムサール条約に登録されている沼で、遊水地としての管理もされている。ヨシやマコモ群落が広がり、水面よりも植生が被覆している面積が大きい。オオハクチョウは冬期間を通して利用し、コハクチョウは秋と春の渡りの時期に多数飛来する。マガンやオオヒシクイなど他のガンカモ類やチュウヒなどの猛禽類も飛来するため、冬期間は野鳥観察者が多く来訪する。オオハクチョウは湿地内のマコモの地下茎を採食していることが多く、厳冬期は沼の上下流域の河川でも採食やねぐらをとっている。コハクチョウは沼をねぐらとし、周囲の水田に餌を食べに行くことが多い。

(選定協力員：嶋田哲郎)

・鳴瀬川－木間塚橋地点 (533) ・ ・大崎市

38・28・36N 141・7・16E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	72	1,103	339	75	100	338
コハクチョウ	1,347	683	513	298	823	733
類合計	1,419	1,786	852	373	923	1,071

2. 選定地の状況

大崎市鹿島台町の木間塚橋の両側に塹している。約500羽程川の中州付近の浅瀬で夜を過ごしている。橋の上流に多く下流に少ない。上流は川幅が広がっているのと、北風の風を利用して飛び立ちやすくなっている。下流のハクチョウも北風を利用して飛び立つとすぐ橋があるため橋の直前で旋回するか橋を越えなければならぬ危険があるので上流に多くいるのはそのような理由からかもしれない。朝日が昇ると川から飛び立って餌場の水田に向かうため日中は見られない。夕方と朝のわずかの時間しか見れないので朝の1時間程が見れる時間となる。川岸には餌を与えていた名残のような木で造られた階段があり、地域から親しまれていた面影が見られる。川岸で見ているより橋の上にいると水田に向かうハクチョウたちが見渡せるので楽しい時間を過ごせる。

(選定協力員：堺 博)

・直沢大溜池（122）・大和町

38・27・20N 140・54・33E



1. ハクチョウ類飛来状況（2011年～2015年）

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	1,060	869	364	731	427	690
コハクチョウ					213	43
類合計	1,060	869	364	731	640	733

2. 選定地の状況

丘陵に入り込んだ谷奥の灌漑用ため池（約 8ha）で、北側には工業団地と公園が広がっている。コハクチョウが多いが、オオハクチョウも多数が渡来している。地元の方の餌付けにより定着したようで、幼稚園のバスが来て子供達がパンを撒いたりもしていたようだが、現在は組織的な給餌は行われていない。池はねぐらとして利用されており、東部の給餌場所周辺にオオハクチョウが多いようだ。昼間は谷沿いの水田だけでなく丘陵南側の吉田川周辺の水田域で採食しているものも多いと思われる。銃猟禁止区域。

（選定協力員：平泉秀樹）

・江合川－江合橋上下流（139）・大崎市

38・34・48N 140・59・27E



1. ハクチョウ類飛来状況（2011年～2015年）

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	560	650	810	550	895	693
コハクチョウ						
類合計	560	650	810	550	895	693

2. 選定地の状況

近くには駐車場やテニスコートが整備されており、地域の憩いの場となっている。地域の人による餌やりが少量行われており、オオハクチョウやオナガガモ、オオバンが岸边近くに集まっている。日中オオハクチョウは橋の上下流域を行き来しながら暮らしているが、周囲の水田に餌を食べに出かける個体も多く、河川と水田を行き来している。そのため朝夕に市街地上空を飛ぶ姿が観られる。夏期にはサギ類のコロニーが中洲に作られ、ダイサギやチュウサギ、ゴイサギなどが繁殖している。

（選定協力員：嶋田哲郎）

・大松沢下町沖 (267) ・ ・ 大郷町

38・27・22N 141・0・29E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	400	131	351	400	250	306
コハクチョウ	800	245	234	50	168	299
類合計	1,200	376	585	450	418	606

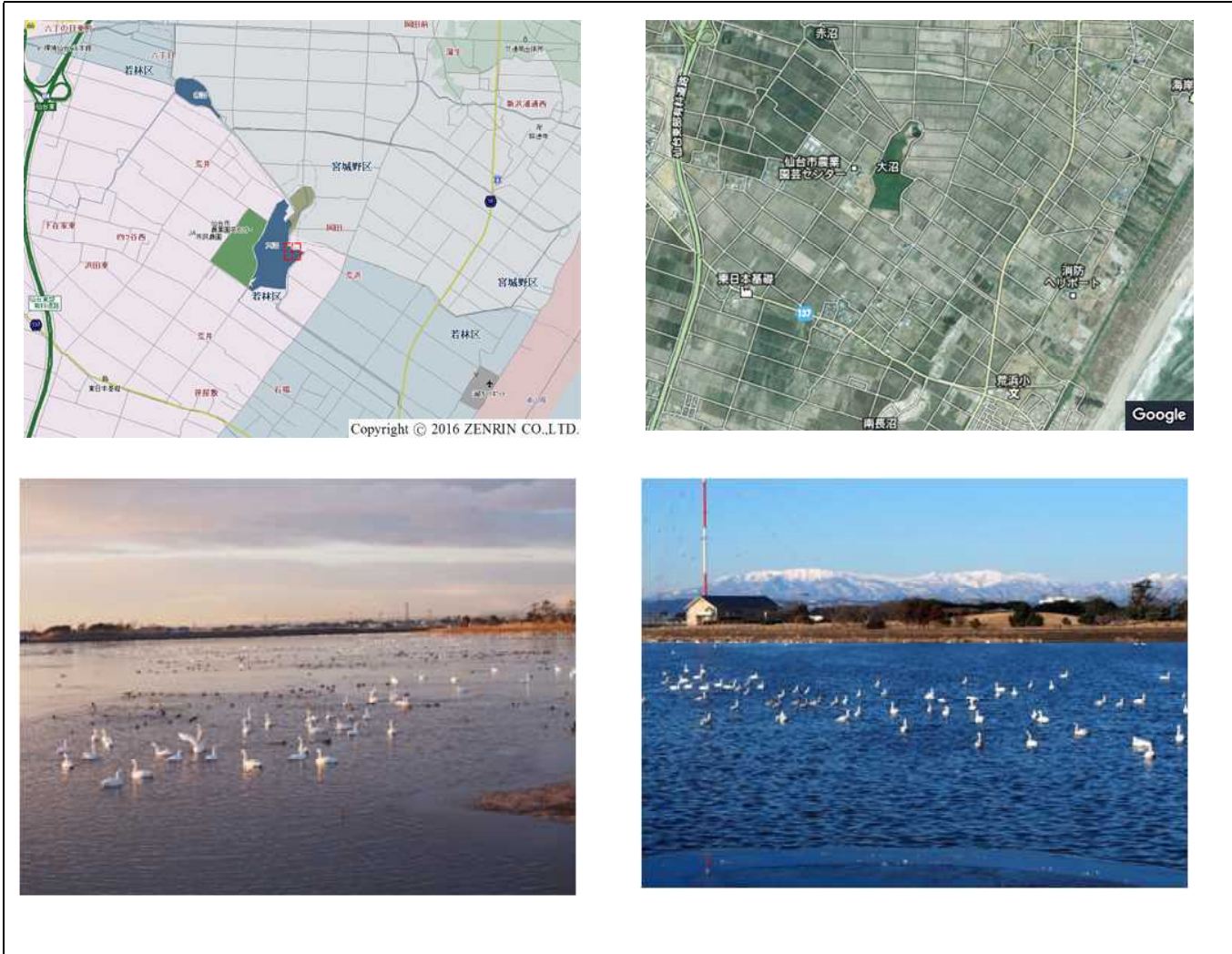
2. 選定地の状況

吉田川流域の水田域である。灌漑用の方形に近い人造湖(1ha強)にねぐらをとおり、日中は周辺の水田で落穂や畔の草を採食しており、下町沖地区岳でなく、周辺にも飛来しているようだ。オオハクチョウ、コハクチョウともに多数が渡来している。組織的給餌はされていない。銃猟禁止区域になっている。

(選定協力員:平泉秀樹)

・大沼（419）・・仙台市

38・14・12N 140・58・16E



1. ハクチョウ類飛来状況（2011年～2015年）

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	37	11		16	27	18
コハクチョウ	870	341	353	473	592	526
類合計	907	352	353	489	619	544

2. 選定地の状況

沿岸水田地帯にある灌漑用の沼（10.6ha）で、垂直の人工護岸で囲まれているがマコモやヒシも繁茂している。大多数はコハクチョウだが、主に西岸沿いでオオハクチョウも見られる。10月後半から3月頃まで主にねぐらとして利用し、日中は周辺の水田等で採餌していることが多い。組織的給餌はないが、餌を撒く人も見られる。東日本大震災の津波で被災し、大沼と上流側の沼の護岸改修で冬に2年間水が入らなかったが、ハスが復活しカンムリカイツブリが県内初繁殖するなど、水域の環境は改善している。周辺の水田も復旧したが、規模拡大工事や秋耕、大豆転作などで採食適地は減少気味で、麦畑で採食することも多くなっている。銃猟禁止区域。（

（選定協力員：平泉秀樹）

・皿貝川－本地橋上流地点（326）・・石巻市

38・32・34N 141・23・0E



1. ハクチョウ類飛来状況（2011年～2015年）

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	40			59	495	119
コハクチョウ			362	72	120	111
類合計	40		362	131	615	230

2. 選定地の状況

北上川最下流部の北岸水田域を流れる小河川で、流れは淀んでいて夏期にはヒシやアサザが水面を覆っており、厳冬期には部分結氷する。オオハクチョウがコハクチョウより多いようで、10月には第一陣が渡来して主にねぐらとして利用する。給餌はされておらず、日中は周辺の水田等で採餌していることが多いが、少数は川で採食していることもある。東日本大震災では津波が遡上して周辺が冠水したが、利用状況に震災前と大きな変化はないようである。元々洪水の頻度が高かった地域で、震災もあって堤防の工事が進められており、今後人工護岸化や植生変化の影響があるかもしれない。鉛散弾禁止区域になっている。

（選定協力員：平泉秀樹）

・海上連親水公園溜池 (227) ・登米市

38・45・20N 141・11・53E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	720	390	170	226	183	338
コハクチョウ						
類合計	720	390	170	226	183	338

2. 選定地の状況

湖岸には遊歩道が整備され、西側に親水公園と丘陵が隣接している。夏にはハスが繁茂する。水質は富栄養化がかなり進行しているようである。1月の飛来状況(表)との個体数およびオオハクチョウ・コハクチョウの比は、時期によって変化する可能性があり、参考までに、2016年2月14日、朝7時には約1650羽を観察し、オオハクチョウとコハクチョウの比は3:2であった。個体数、オオハク・コハクの比ともに変動が大きいと思われる。カモ類も多く、特にマガモやミコアイサが目立つ。

(選定協力員: 鈴木 康)

・ 迫川－若柳大橋下流 (181) ・ 栗原市

38・46・15N 141・7・47E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	176	83		130	130	104
コハクチョウ	107	136	212	213	280	190
類合計	283	219	212	343	410	293

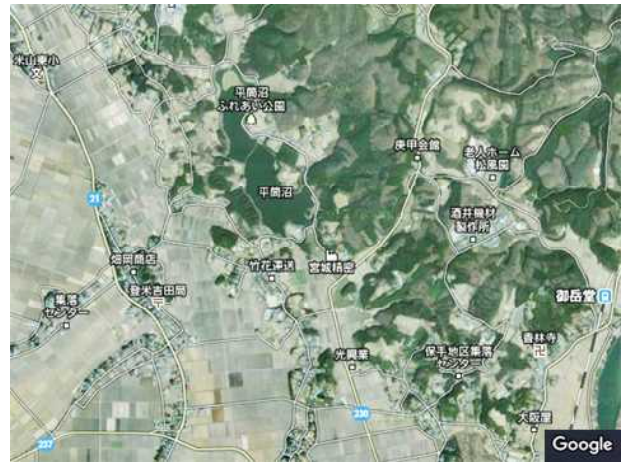
2. 選定地の状況

10月上旬に飛来し、毎年秋の宮城県内への白鳥飛来のニュースとして取り上げられる渡来地である。過去には専用の護岸が整備されるなど、盛んに餌付けが行われてきた場所であるが、護岸周辺への土砂の堆積や、鳥インフルエンザへの懸念から、現在、餌付けはほとんど行われていない。日中、白鳥は周辺の水田で採食し、迫川は主に罫として利用されている。毎年1月の「どんと祭」の日には、隣接する町での打ち上げ花火に驚いて白鳥が飛び立ち、パニック状態で市街地上空を飛び立つ様子が毎年見られ、事故等が心配される。実際に過去には、花火によって驚いて飛び立った白鳥が電線に接触し、市街地に落ちる事例もあった。

(選定協力員: 鈴木 康)

・平筒沼 (221) ・登米市

38・36・52N 141・14・9E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	311	290	125	243	364	267
コハクチョウ	9	5				3
類合計	320	295	125	243	364	269

2. 選定地の状況

登米市旧豊里町と旧米山町にまたがる農業用ため池である。周囲に桜並木の遊歩道が整備されているほか、遊具のある公園も設置されている。またヘラブナ釣りの名所としても知られ、地域の憩いの場となっている。栈橋近くでは餌づけもなされている。オオハクチョウをはじめとする多くのガンカモ類が飛来するが、特筆すべきは亜種ヒシクイのまとまった数が飛来することである。地域の環境保全の意識は高く、夏のハス刈りや清掃活動をはじめ、さまざまな活動に取り組んでいる。

(選定協力員：嶋田哲郎)

・角柄堤 (289) ・ 東松島市

38・27・3N 141・9・47E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011 年～ 2015 年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	220	報告なし	報告なし	182	250	130
コハクチョウ						
類合計	220			182	250	130

2. 選定地の状況

江戸時代中期に整備された広さ約 2.4 ヘクタールのため池で、地元では「白鳥の里」として餌付けが行なわれるなど親しまれている。駐車場やトイレ、四阿が整備されており来訪しやすく、木製の栈橋からは水鳥を足元近くで見ることができる。カモ類も数種が見られ、西側の堤体上で休息したり、東側に繁茂する抽水植物の間で採食したりする姿を見かける。2011 年 3 月の東日本大震災で堤が損傷したせいか、堤内に入るハクチョウが以前より大幅に減少したというが、堤とその西側を流れる鳴瀬川との間に広がる農耕地はコハクチョウを主とした多数のハクチョウが採食場として利用しているので、堤内でハクチョウが見られない場合にも姿を楽しむことができる。

(選定協力員：杉野目 齊)

・大沢堤 (251) ・ ・石巻市

38・30・17N 141・10・0E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	240	95	2	172	258	153
コハクチョウ						
類合計	240	95	2	172	258	153

2. 選定地の状況

林に囲まれた農業用ため池である。周囲はフェンスで囲まれており、水際に沿ってマコモやヨシが分布している。ハクチョウ飛来地、大沢堤という大きな看板があるほか、近くに公園やサクラ並木などもあり、地域の憩いの場となっていると思われる。餌を集めておく小屋、餌づけ桟橋があるほか、人が池に近づくとオオハクチョウやオナガガモなどが寄ってくるため、定期的な餌づけを行っていると思われる。周辺の水田でオオハクチョウが採食していたことから、餌づけだけに依存しているのではなく、水田でも採食していると考えられる。

(選定協力員：嶋田哲郎)

・鳴瀬川－鳴瀬大橋地点 (147) ・ ・加美町

38・34・48N 140・50・22



E

1. ハクチョウ類飛来状況 (20011 年～ 2015 年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	175	140	172	275		147
コハクチョウ		1,080				294
類合計	175	1,222	172	275		442

2. 選定地の状況

加美町 (旧中新田町) の鳴瀬大橋のたもとの堰堤に飛来している。川の中州付近の浅瀬で夜を過ごしている。堰堤にはハクチョウの餌となる植物は無く、そのため堰堤にいるのは夕方から朝方までで、朝日が昇ると周囲の水田に飛び立っていく。日中は水田で落穂や畔の草を食べているが、雪の多い地域なため水田が雪に覆われると餌が取れなくなるのでハクチョウの一部は他の地域に移動をするので厳冬期は減少する。堰堤は冬季水を放流するため水量が減少するので水がある個所に集まるようになる。

飛来時期は 10 月中旬から翌年 3 月中旬ころまでで、周囲の景色が素晴らしくハクチョウが周囲の景色を更に惹きたてていて持ち帰りた景色です。

(選定協力員：堺 博)

・下伊場野 (1 4 1) ・ ・大崎市

38・31・25N 141・1・16E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	143	43		71	13	54
コハクチョウ	203	270	29	206	111	164
類合計	346	313	29	277	124	218

2. 選定地の状況

鳴瀬川の南側に広がる約 150 ヘクタールの水田地帯で、県道 40 号線により東西に隔てられている。多い時で 300 羽程度のハクチョウ類が飛来し、オオハクチョウとコハクチョウの両種が共に見られるが、コハクチョウの方が多く見られることが多い。コハクチョウを注意深く見ていくと、北米産亜種と考えられる嘴の黄色部が小さい個体が見つかることがある。県道から比較的近くに群れがいることも多く、通りすがりに車を停めて撮影する人の姿を時折目にする。厳冬期にはさらにマガンやヒシクイが飛来し、1000 羽を超える群れを見ることがある。2015 ～ 2016 年のシーズンは暖冬が影響してかハクチョウ類が少なく、1 月初旬にようやく 50 羽程度が、2 月初旬には 200 羽程度が見られた。

(選定協力員：杉野目 斉)

・相野沼 (161) ・ 浦谷町

38・33・51N 141・6・8E



1. ハクチョウ類飛来状況 (20011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	116	157	38	126	136	115
コハクチョウ				4	17	4
類合計	116	157	38	130	153	119

2. 選定地の状況

南北を林に囲まれている沼で、水草の種数の多さ、オオハクチョウやオオヒシクイの飛来があることから「生物多様性保全上重要な湿地」に選定されている。夏期はハスやコウホネなど多様な水生植物が生育する。周囲には桜も植栽されており、地域の憩いの場としても利用されている。また、カヌーなどの体験学習も行われている。ハクチョウ類は主にオオハクチョウが飛来し、餌としては沼内の水生植物と周囲の水田で落穂を食べており、沼と水田を行き来して暮らしている。厳冬期にはマガンやオオヒシクイも飛来してねぐらなどに利用する。

(選定協力員：嶋田哲郎)

・ 機織沼 (443) ・ ・ 登米市

38・44・0N 141・16・38E



1. ハクチョウ類飛来状況 (2011年～2015年)

	2015年	2014年	2013年	2012年	2011年	5年間平均
オオハクチョウ	171	233	18	108	133	133
コハクチョウ						0
類合計	171	233	18	108	133	133

2. 選定地の状況

周囲に遊歩道や東屋が整備されている。夏にはハスが繁茂する。白鳥は多い時で 400 羽程が埭として利用する。オオハクチョウとコハクチョウの比は 2015 年 11 月 20 日の埭入り時の観察で、合計約 400 羽の群れにおいて、およそ 1:3 であった。少なくとも最近 3 シーズンで、アメリカコハクチョウ 3-4 羽が一度に観察されている。沼は北上川の東側に位置するが、西側に広がる広大な水田地帯を主な採食地として利用していると思われる。沼全体が凍結すると、白鳥は移動して一時期見られなくなるが、氷が融けて水面が開けば再び利用できるようになる。沼の凍結時に、1km 程離れた北上川・錦桜橋付近の洲に就埭する 300-400 羽前後の白鳥が見られることが多く、機織沼との行き来が考えられる。

(選定協力員： 鈴木 康)